



## 湾岸・アラビア半島地域ニュース

### クウェイト：ディナール(KD)の切り上げ・切り下げ (7月26-27日付現地報道取纏め)

#### 1. 第3回対米ドルKD切り上げ

- (1) 7月25日、クウェイトは最近の米ドル価値の下落を受けて、1.7%の対ドルKD切り上げを行った。今回の切り上げは、KDがドルペッグ制からバスケット制に移行した5月19日以降3度目の切り上げであり、KDは5月19日時点から合計2.5%（対米ドル）切り上がった。中央銀行は、米ドルの買値を0.28195、売値を0.28205としており、KDは対米ドル0.28200で取引されると予想される。
- (2) アブドルアジーズ・アル・サバーハ中央銀行総裁は、通常クウェイトではインフレ率が2%を常に下回っていたにも関わらず、2005年にインフレ率が4.1%のピークを迎え、又、2006年には3.1%を記録していると述べている。最新の政府のデータによると、今年の3月末時点でのインフレ率は5.15%を記録している。クウェイトでは、輸入全体の38%をユーロ圏から行っており、米ドル価格の下落がもたらす輸入品価格への影響が懸念されている。
- (3) 今回のKDの3度目の対米ドル通貨切り上げを受け、他のGCC諸国も通貨切り上げに踏み切るのではないかと憶測されているが、サウジアラビア及びUAE中央銀行は、今回のKD切り上げに対するコメントを出しておらず、オマーン中央銀行副総裁は、「ドル価格の下落は一過性であり、オマーン・リヤルの切り上げの可能性はない。」と述べた。

#### 2. KDの切り下げ

- (1) 7月26日、国際市場での米ドル価格の再上昇を受けて、中央銀行は2003年以来初めてKDの切り下げを行った。前日(25日)の1.7%切り上げに引き続き、0.11%の通貨切り下げを実施し、KDは1米ドルあたり0.28230で取引されるであろうと中央銀行は述べている。今回の措置により、5月19日時点の為替相場と比較して、KDは合計2.34%切り上がったことになる。
- (2) ロンドンのParibas BNPでは、「今回の切り下げにより、KDはもはや切り上げ一辺倒と予測することは出来ない」と述べ、在ドバイのHSBCでは、「今回の切り下げにより、クウェイトは5月に公表したバスケット・システムへの移行を本格化させたと言える」と述べている。